

NPO運営力パワーアップ

## 「協働事例に学ぶ」

- 秋田県と企業が広い分野で連携
- アンケート結果
- 震災を考える「できることから始めよう」  
支援と備え「協働のまちづくり」  
※6ページをご覧ください。
- 情報あらかると
- 憩うところ&イベントカレンダー

# んずな

3

2012



私たちにできること

### 「避難者の支援策を探る」

能代市市民活動支援センターは、のしろ市民活動いろは塾特別編「探そう私たちにできること・広げよう支援の輪」を開催し、東日本大震災で被災し、秋田県内に避難生活を余儀なくされている方の状況を知り、市民レベルでできる支援活動について話し合いました。県内の避難者は1559人（平成24年1月27日現在）、岩手県・宮城県・福島県などからで、年齢男女別では30代の女性と小学生・乳幼児が多い状況です。能代市では39世帯が避難生活を送っています。

県内避難者の状況などについて、県の総合政策課政策監(兼)被災者受入支援班班長、県山本地域振興局地域企画課の避難者相談員が説明しました。相談員は、県北地域に借り上げた住宅約30世帯を定期巡回しています。避難者の大部分は、秋田県に縁もゆかりもない母子世帯が多く、秋田市の避難者交流センターを利用したくても、時間的な制約や交通手段の確保ができません。また、長引く避難生活や避難元の情報不足による不安の声もあがっています。出席者は、支援したい側に避難者のニーズ情報を提供するなど、情報交換が今後も必要であると確認し合いました。

☆「被災地からの情報」「秋田での避難生活の支援情報」「秋田での就職支援情報」は、秋田県ホームページ「震災等に伴う県外からの避難者について」をご覧ください。 <http://www.pref.akita.lg.jp/>

☆能代市市民活動支援センター <http://www.shirakami.or.jp/~supportnavi/>



# NPO運営カパワーアップ 「協働事例に学ぶ」

秋田県内では、年々、市民が自発的に集まり、課題解決に向けて、主体的に取り組む動きが活発化しています。NPOは、市民による社会貢献活動の場であり、新しい公共の担い手として期待されていることから、組織基盤の強化が求められています。2月28日(火)、「NPOマネジメントセミナー」が大館市で開催され、先進的な協働事例から、頼れるNPO、信頼されるNPOのポイントを学び、NPOの組織運営強化とネットワーク構築の推進を図りました。宮城県の「NPO法人杜の伝言板ゆるる」代表理事の大久保朝江さんが県外の協働事例を紹介し、信頼される組織づくりについて講演しました。

NPO法人杜の伝言板ゆるる（以下、ゆるるという）は、ボランティア・NPOに関する情報収集・提供を主軸に、人材育成やNPOの基盤整備に向けて支援するNPO中間支援組織です。ボランティアに踏み出す情報提供と出会いの機会をつくるため、平成9年6月から「月刊杜の伝言板ゆるる」を発行(毎月10,000部)しています。

## 事例① 「宮城県との協働」

ゆるるは、「みやぎNPOプラザ」指定管理者です。「みやぎNPOプラザ」は、宮城県内のNPO活動を総合的に推進するための中核機能拠点施設で、情報の受発信、会計・労務・設立などの講座開催、専門相談、会議室などの提供を行っているほか、NPO的起業を支援するNPOショップ・レストランがあります。当初は、建物の管理のみでした。大久保さんは、売り物のないデパートと例え、そのような場所には人

集まらないので、利用者に重点をおいた提案を宮城県にし、専門相談、NPOの冊子販売代行、50歳からの実践塾（シニアのNPO参加促進）の開催を実現しました。



NPO法人杜の伝言板ゆるる  
代表理事 大久保朝江さん

「ICT支援NPOネットワーク宮城」の委託事業を受託しています。「ICT支援NPOネットワーク宮城」は、宮城県内でIT講習会などの指導やサポートを行っているNPOが連携し、コミュニケーションに重点を置いた指導や、より質の高い技術の習得をめざして、ICT※の勉強会や検定、研修を実施しています。

※ICTとは、情報(Information)や通信(Communication)に関する技術(Technology)の総称です。

## 事例② 「拠点づくりに向けて」

登米市・ゆるる・地元NPOのモデル事業は、登米市が平成25年度「登米市市民活動支援センター」設置にあたり、ゆるるはアドバイザーとして関わり、地元の人たちによる組織(とめ市民活動フォーラム)の研修により組織・基盤強化を図っています。三者が連携して、地元の特徴を生かした市民活動支援拠点づくりの設置・運営をめざしています。

## 事例③ 「高校生のボランティア体験」

「NPOで高校生の夏ボラ体験」は、夏休み期間に高校生がNPOで3日間のボランティア体験をし、23団体が約150人もの高校生を受け入れています。ゆるる主催、かほく「108」クラブが共催で実施しています。かほく「108」クラブ

## NPO法人 杜の伝言板ゆるる

<沿革>

平成8年12月	みやぎの市民・ボランティア活動情報誌編集部を結成
平成9年6月	杜の伝言板ゆるる編集部に改名
平成11年6月	総会を開催し、任意団体杜の伝言板ゆるるとして組織化
平成15年3月	法人化し、特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
平成15年	「NPOで高校生の夏ボラ体験」実施
平成17年4月	「みやぎNPOプラザ」の管理・運営(指定管理者)
平成17年	「NPOプラザ訪問バスツアー」実施
平成20年	「ろうきんパートナーシップ」協力団体
平成21年	「ICT支援NPOネットワーク宮城」受託(委託事業)
平成23年	「被災NPO復興支援室」設置

は、河北新報社グループに働く従業員などで構成された社会貢献団体で、青少年の育成と社会参加という目的が一致したことから実現しました。実施の流れは、NPOと共催団体の研修、高校生の事前学習会（NPOや編集者による「文章の書き方」、東北ろうきん担当者による「お金の学校」の講話）、ボランティア体験（高校生は体験後、体験談を提出）、河北新報のSNSふらっとの掲載、体験談集を発行し高校生と学校への配布です。

## 【他団体の協働事例】

事例④ 知的障がい者の社会参加を支援しているNPO法人ネットワークオレンジと、若手商工業者が街の活性化を目的に立ち上げた「活性化集団『粋』」が協働し、障がい者の就労支援、社会参加、まちづくり活動と踏み込んだ活動を行っています。

事例⑤ 子育て支援のNPO法人MIYAGE子どもネットワークと、セルバが協働し、子育て中の親子を支援しています。

事例⑥ イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーン。NPO等はイオンに登録。お客さんがレシートを備え付けのBOXへ投函し、そのお買い上げ金額合計の1%を、イオンでは登録団体に還元します。

## 【協働するには】

- 団体のミッションに合致した事業／団体の目的にはずれないこと。下請けになりかねない。
- NPOならではの提案／提案力が必要です。
- 協働の双方が有益であること／Win-Win<sup>ウィン ウィン</sup>の関係。
- お互いを尊重すること／協働相手をよく理解すること。
- 誰のためにするのか→NPOのためにはではなく、ユーザーは市民／市民にとって有益であること。

## 【NPOと行政・企業の望ましいパートナーシップのあり方】

### 「本気で向き合う」「継続する」

- ①協働の相手を知る
- ②双方の話し込み／目的を共有することから始める。目標:協働は、ニーズの確認で始まり、その課題解決への成果目標、そこに至るまでの実施方法を、それぞれがもつ特色を生かし、合意点を見つけながら実施していく。
- ③相互評価／認め合い、相手の成果を外に向かって発信する。お互いに評価しないと協働の成果は見えない。

## 信頼される組織づくりとは

大久保さんは「信頼されるNPOの7つの条件」（民間NPO支援センター・将来を展望する会）を紹介。ハードルは高いが理想とせず、目標としてめざしてほしいとし、「信頼される組織づくり」について説明しました。

### 1. 活動の原点

「何のために活動しているのか」という目的を組織内で共有する。

### 2. 活動してこそNPO

- ・学習の場ではなく、困難な問題を解決するためにNPOは存在する。
- ・組織の活動は余暇活動ではない。(時間があるからするのではない。)→解決しなければならない課題があるからだ。
- ・継続して取り組むことが、目的に近づくことであり、他からの信頼を得る。
- ・活動する軸足は、市民（消費者）にある。

### 3. 活動計画と資金

- ・ミッションに向かって活動する体制を整える。
- ・体力にあった活動計画を立てる。→お金があるから活動するのではない（団体の力量、方向を見極める。）。
- ・活動するにはお金が必要。→資金調達（助成金・委託提案・コミュニティビジネス）。

### 4. 信頼性の確保

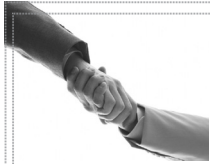
- ・活動できる態勢か→スタッフやボランティアがいる(賛同者)。ボランティアは雇用関係ではない(熱意がなければいつでも離れる)。
- ・資金の管理ができていないか→内部統制(通帳と印鑑の保持者の分割)。日々の出納と帳票管理。管理力がなければ、多額の助成金獲得や委託事業の遂行は難しい。
- ・意思決定機関が機能しているか→理事会、事務局会議、運営委員会(活動は組織でするもの!)

### 5. 理事の役割と責任

- ・3つの機関と役割・・・総会、理事会、事務局
- ・理事の責任（通常業務の中での責任、NPOが破綻したときの責任）

### 6. 情報開示

- ・信頼を得るためには欠かせない。特にwebサイトを使った情報発信が必要。→近隣以外は、webサイトから情報を得る。団体ホームページの有無は、助成金審査には重要なポイントとなる。
- ・年次報告・会計報告・役員・定款を公開する。
- ・総会資料は、市民から賛同を得るように活動をしっかり記載する。（活動状況の見える報告書の作成）



# 秋田県と企業が広い分野で連携

秋田県では、秋田の元気創造に向け、多様な主体が相互の特色を活かしながら課題解決に取り組む協働を推進しています。企業は、CSR(企業の社会的責任)※の観点で、自治体やNPO等との連携した取り組みを積極的に行っています。

※CSR (corporate social responsibility) とは一般的に「企業の社会的責任」の意。収益を上げ配当を維持し、法令を遵守するだけでなく、人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献など企業が市民として果たすべき責任をいう。(「デジタル大辞泉」より)

## 企業と広い分野で連携

「連携と協力に関する包括協定」は、秋田県民サービスの向上と地域の活性化を図ることを目的に、協働による連携した活動を推進し、地域のさまざまな課題に迅速かつ適切に対応するために、秋田県と企業が締結しています。

これまでに包括協定を締結した企業は、株式会社サークルKサンクス、株式会社ローソン、株式会社伊徳、株式会社タカヤナギ、イオン株式会社、株式会社ファミリーマートです。連携事項は、地産地消、健康増進・食育、高齢者・障害者支援、子ども・青少年育成、環境保全、災害対策、観光振興など広く、企業ごとに具体的な内容で取り組みを進めています。

株式会社ローソンでは、包括協定に基づいた協働事業の一環で、障害者自立に向けた支援として、授産施設等で製作した商品を秋田市内2店舗で販売していました。今年2月からは、全県10店舗に広げ、県内の授産施設12カ所の商品を販売しています。

☆各企業の具体的な連携事業は下記をご覧ください。

「美の国あきたネット」→「組織別案内」→「企画振興部」→「地域活力創造課」→「県と企業との包括協定」

☎秋田県企画振興部地域活力創造課

TEL.018-860-1237

## 家庭教育の充実に取り組む企業

秋田県家庭教育支援制度「我が社は家庭教育応援団」は、家庭はすべての教育の原点であるとの認識のもと、未来を担う子どもたちの健やかな育ちを支え、安心して働ける職場、家庭教育の充実に取り組む企業等を「応援団企業」として登録し、秋田県教育委員会が支援します。平成24年2月1日現在、応援団企業は76件で、秋田県が掲げる取組項目のいずれか2項目以上に取り組んでいます。取組項目①学校へ行ってみよう ②職場で働く姿を見せよう ③子どもと一緒に時間を増やそう ④その他(家庭教育を支えよう)

☆応援団企業一覧は下記をご覧ください。

「美の国あきたネット」→「教育・文化・交流」→「生涯学習」

☎秋田県教育庁生涯学習課 TEL.018-860-5184

## 企業が子育て家庭を応援

「子育て家庭に対する優待サービス制度」は、子育て家庭を応援する店舗等を協賛店とし、協賛店が独自に設定したサービスを子育て家庭に提供します。「あきた子育てふれあいカード」は、市町村などを通して中学生以下の子ども1人につき1枚を配布。子育て家庭は、協賛店にカードを提示するとサービスを受けることができます。平成24年2月末現在、協賛店は1,505件となっています。

☆協賛店の情報は下記をご覧ください。

秋田県子育て家庭優待事業Web「あきた子育てふれあいカード」で検索。

☎秋田県健康福祉部子育て支援課 TEL.018-860-1341

## 少子化克服に取り組む企業

「子どもの国づくり推進協定」は、「少子化の克服に向けて、若者定着、出会い・結婚支援、出産・子育て支援、仕事と家庭・育児の両立支援などに、それぞれの立場で取り組んでいくこと」を、企業・団体などとベビーウェーブ・アクション※の間で結ぶものです。平成24年1月末現在、1,700件を超える企業・団体と協定を結んでいます。

☆協定参加団体一覧は下記をご覧ください。

秋田県少子化対策総合ウェブサイト「ベビーウェーブ・アクション」→「子どもの国づくり」

<http://common.pref.akita.lg.jp/babywave/>

※ベビーウェーブ・アクションは、正式名称「脱少子化ウェーブを巻き起こす行動県民会議」。行政、経済、市民活動団体など各界の代表やマスコミ等で構成する少子化克服に向けた県民運動の母体で、会長は佐竹知事です。



## 少子化克服に取り組む企業を表彰

「ベビーウェーブ・アクション会長表彰」は、少子化克服のモデルとなる取り組みを行っている県内の企業・団体などを表彰することで、県内における脱少子化の機運を高め、県民が少子化克服に向けて積極的に行動する意識を醸成するため、今年度創設されました。

県北地区の受賞者は、株式会社鹿角パークホテル(鹿角市)、有限会社ポーランド(小坂町)、ニプロ株式会社大館工場(大館市)、東光コンピュータ・サービス株式会社(大館市)、秋木製鋼株式会社(能代市)、株式会社シーネット白神(八峰町)です。

☆表彰式の様子や受賞者の概要は下記をご覧ください。  
 秋田県少子化対策総合ウェブサイト「ベビーウェーブ・アクション」→「企業・団体の取組」  
<http://common.pref.akita.lg.jp/babywave/>  
 秋田県企画振興部少子化対策局  
 TEL.018-860-1248

## 地域の景観づくりを進める企業

「景観まちづくり事業者協定」は、事業者による景観に配慮した事務所・店舗づくりや、事業者と地域が一体となった景観まちづくり※を進め、県土の良好な景観形成を促進することを目的として、秋田県が事業者と協定を結んでいます。

平成23～25年度までは、北秋田市商工会、高三建設株式会社(大仙市)、小玉醸造株式会社(潟上市)、むつみ造園土木株式会社(潟上市)と協定を締結しています。  
 ☆協定内容などは下記をご覧ください。

「美の国あきたネット」→「くらし・環境」→「自然・環境」→「景観」

秋田県建設交通部都市計画課

TEL.018-860-2445

※景観まちづくりとは、地域の良好な景観を守り、新たに創り出す活動、と県では定義しています。

## 集落の元気づくりを応援

「あきた元気ムラ応援団」は、集落と協働活動を通じた交流により集落の元気づくりを応援したいという企業やNPO等を登録し、高齢化等集落対策協議会(秋田県、市町村)が集落と応援団の要望をつないでいます。  
 平成24年1月28日現在、企業等の応援団は38件となっています。

☆あきた元気ムラ応援団の登録一覧、活動内容は下記をご覧ください。

「美の国あきたネット」→「企画振興部」→「地域活力創造課活力ある農村集落づくり推進チーム」→「秋田県高齢化等集落対策協議会」

秋田県企画振興部地域活力創造課活力ある農村集落づくり推進チーム TEL.018-860-1215

## 環境美化活動を盛り上げる

「あきたクリーンパートナー登録制度」は、秋田県内で環境美化活動に取り組んでいる住民団体や町内会、学校、企業等をあきたクリーンパートナーとして登録し、秋田県が活動を支援します。

☆あきたクリーンパートナーの一覧は下記をご覧ください。

「美の国あきたネット」→「くらし・環境」→「自然・環境」→「環境美化活動」

秋田県生活環境部環境整備課

TEL.018-860-1622

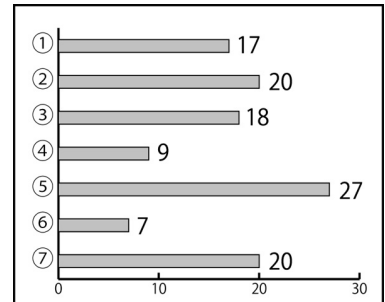
## 平成23年度「んだすな」アンケート結果報告

アンケート調査を実施しましたので、結果をご報告します。  
 ご協力いただきましてありがとうございました。

☆集計数47通(男21、女23、未記入3)

☆2011年度掲載の興味深い記事について

- ①表紙
- ②特集
- ③元気のミナモト  
(高校生のボランティア活動)
- ④憩うところ(交流サロン)
- ⑤震災を考える(連載)
- ⑥憩うところ&カレンダー
- ⑦情報あらかると

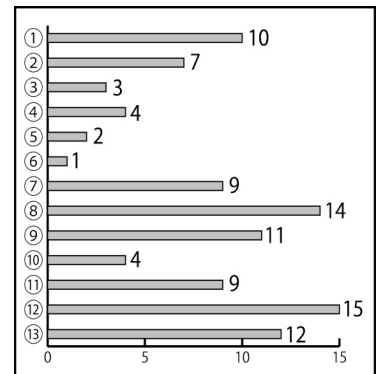


☆印象に残った記事について

震災を考える(連載)、高校生が企画し、行動!被災地へ(10月号)、釈迦内サンフワプロジェクト(2月号)、あきたスギッチファンドの取り組み(11月号)、お茶碗びかびかプロジェクト(9月号)、秋田の高齢化率と「協働」(11月号)、大館工業高校の交流(2月号)、牛乳パックで作る防災キット、高校生の活動状況

☆取り上げてほしい情報について

- ①ボランティアの基礎
- ②NPOの基礎
- ③NPO法人設立
- ④会計
- ⑤税務
- ⑥労務
- ⑦資金調達
- ⑧協働事例
- ⑨事業の企画立案
- ⑩事業報告書の作成
- ⑪広報
- ⑫企業の社会貢献活動
- ⑬コミュニティビジネス



☆取り上げてほしい市民活動団体・企業等、話題について

補助金等の案内、活動のPR、放射能のはかり方(食品)、介護について、若者の活動参加の事例、高齢化世帯の雪下ろし対策、冬をどうのりきるかの工夫について、育児施設を備えた企業、高校生が参加できるNPO活動、ボランティア募集情報(雪よけ等)、東日本大震災の復興と現状の問題点、東日本大震災被災者支援ボランティアの包括的情報(団体、活動、窓口のリスト)

☆ご意見・ご感想について

○「情報あらかると」は大助かり。さらなる充実を期待している。○「んだすな」や同封のチラシをみて、広報の大切さを感じている。○図書館で生徒が見られるようにした。○少子高齢化が進行するなかで、若い人たちがボランティア活動に取り組む記事に接すると、たいへん元気づけられる。○釈迦内地区のまちづくりは、地域のみなさん、子どもと大人と一緒に取り組み、すばらしいと思う。○例会で閲覧している。多方面のイベント情報に興味がある。○秋田市にいと県北情報はあまりない。家族で参加できる活動などが載っていれば行ってみたい。ちなみに秋田市雄物川のゴミ拾い&カヌー体験に昨年参加して楽しかった。○ほかの地域で行われている記事も参考になり、楽しみに読んでいる。○全国の公募助成の情報がほしい。○もう少し活字が大きめであれば読みやすい。○刷り色が薄青色だと少しインパクトが弱い。○写真を鮮明に、表情をとらえる等できたら、目をひくと思う。○若い人の活動参加をどう実現するかが悩み。

東日本大震災から間もなく1年が経ち、被災地内外でさまざまな追悼の催しが企画されています。3月11日以降、秋田県内でも防災への関心が高まり、講演会や防災訓練などが各地で催されてきました。また、広報誌や新聞・テレビでも防災の話題が多く取り上げられた一年でした。社会全体の関心が高まっている今こそ、できることを始める絶好の機会ですが、みなさんご自身の家庭や職場では、改めて備えを見直されたでしょうか。また、何らかのアクションをおこしましたか。



秋田大学の学生たちが大槌町立吉里吉里中学校で冬休みの学習支援を行いました。

## 地域づくりの正三角形

以前にご紹介した能代市上町や秋田市茨島7丁目の取り組みは、住民の方々のやる気と頑張りがなければできないことですが、市役所や消防、警察など公的機関や大学など専門家の参加・協力があることも重要なポイントです。

5年前、能代市でまちづくりフォーラムを開催した際に、長年地域づくりに関わってこられた三重県職員の方が「地域づくりの正三角形」というお話をなさいました。地域（まち）づくりでは、①地元の担い手（賛同者を募って主体的に活動をする）、②地元の行政（公共サービスのプロとして参加する）、③外部の達人（異文化の目で地域を発見する）の3者が同じ力を発揮して正三角形となるようにそれぞれ努力しないとうまくいきません。あなたの地域はバランスが良いですか？どこかに頼っていませんか、そういう確認をしながら続けることが大事ですよ、という内容でした。

真の協働のまちづくりは、役所の縦割りを横ざしにした多様な内容が、正三角形の関係者によって継続的に進められるものだと思います。被災後に新たな関係を築きながらまちづくり活動を始めるのではなく、平常時から防災を意識していろいろな組織と連携して顔の見える間柄をつくり、それぞれが同じ力を出し合って取り組む。過去の災害からの教訓「災害時には

ふだんできていることしかできない」は、災害以前の社会のありようが問われていることを意味しています。

## できることから始めよう

震災をきっかけに、県内大学の学生たちが秋田学生支援ネットワークという被災地支援のボランティアネットワークを立ち上げて活動を続けています。これまでに瓦礫の撤去やクリスマス企画、学習支援活動などを行ってきましたが、目下、3月11日に福島へ支援の想いを伝えるたすきリレーを全国各地の大学生と連携して行う準備を進めています。3月4日には秋田市内47キロを有志がリレーで走ることや、知事やスギッチが参加するセレモニーも計画されています。

昨年4月には、被災地でボランティアをする学生たちを支援しようと、大学教員が中心となってNPOや市民団体などに呼びかけ「災害ボランティア活動支援ネットワークあきた」が立ち上げられました。ネットワークとしての事業はまだ大学生のためのボランティア講座を開催したにとどまっていますが、情報交換をしながら学生たちの取り組みを支援しています。じょうずな支援は、じょうずな受援※につながります。被災地支援ボランティアのあり方や支援方法について意見交換を行い、よりよいボランティア支援のしくみを産学官民でつくり上げていくことが、今後、重要ではないでしょうか。

※ボランティアを地域で受け入れる環境・知恵などのことを「受援力」(支援を受ける力)とし、内閣府ではパンフレット「地域の「受援力」を高めるために」を作成しています。

<http://www.bousai-vol.jp/juenryoku/>



渡辺千明さん

秋田県立大学木材高度加工研究所准教授。地域防災学専門。地域資源を活用したまちづくり・民家の工法と生活文化・中山間地域における地域社会の防災力・災害ボランティアの研究を行っています。

# 情報あらかると

## イベント情報

### 大館市

大館・北秋田地域市民活動  
ネットワークセミナー

### “市民主役型社会”を一緒に つくりませんか？

【日時】3月14日(水)13:00～16:00

【会場】プラザ杉の子(大館市有浦一丁目)

【内容】講演「市民主役型社会の到来」

講師/武内伸文氏 (SiNG代表)、テーマ別  
座談会

【参加費】無料 ※申込が必要です。

◎北秋田地域振興局総務企画部

(担当/高橋)TEL.0186-62-1251

### 北秋田市

### 平成23年度水と緑の ネットワークセミナー

【日時】3月17日(土)13:30～

【会場】北秋田市交流センター(北秋田市)

【内容】「森聞き」上映。映画は「森の“聞き書き甲子園”」に参加した高校生4人を追った長編ドキュメンタリー。「森の“聞き書き甲子園”」は、日本全国の高校生が「森の名手・名人」を訪ね、智恵や技術、人生を「聞き書き」し、記録する活動です。

【参加費】無料

【主催】米代川流域水と緑のネットワーク

◎北秋田地域振興局農林部森づくり推進課 TEL.0186-62-1445

### 能代市

### 女子力が能代を変える！

【日時】3月17日(土)10:00～11:30

【会場】能代市中央公民館(能代市追分町)

【内容】これから「何か新しいことに挑戦したい」と考えている女性たちに、きっかけづくりの場、交流の場を提供するため、能代山本地域を舞台にした女性の活動を紹介します。発表者は安食知佳子さん(能代市市民活動支援センター アドバイザー)「市民活動

は未来への贈りもの」

【参加費】無料

【定員】20名(定員になり次第締切)

◎申込:能代市市民活動支援センター  
(主催)

TEL.0185-52-0355

### 大館市

### 第6回北部エリア お客様感謝祭

【日時】3月20日(祝・火)10:00～16:00

【会場】秋田県北部老人福祉総合エリア  
(大館市十二所)

【内容】地域福祉施設等の物品販売、健康チェック、マジックショー、フリーマーケット、陽気な母さんの店×桃豚のコラボ、ゆるキャラ着ぐるみとの記念撮影、ももぶたんば号の販売、餅つき、ほか

【入場料】無料

◎秋田県北部老人福祉総合エリア(主催)

TEL.0186-47-7070

### 能代市

### のしろ市民まちづくり フォーラム～日本風景街道を通

して私たちにできること4～

【日時】3月23日(金)13:30～17:00

【会場】能代山本広域交流センター

【内容】講演「自然エネルギーや木材を活かしたまちづくり」講師/中越武義氏(元高知県梶原町長)、話題提供、フロアディスカッション

【参加費】無料

【主催】日本風景街道のしろ白神ネットワーク

◎事務局(秋田県立大学木材高度加工研究所内) TEL.0185-52-6987

<http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/douro/nsnw/>

### 能代市

### 大人のおなはし会

【日時】3月24日(土)14:00～15:00

【会場】能代市立図書館(能代市追分町)

【内容】絵本の読み聞かせや紙芝居。ストーリーテリングなど大人の方向け。おはなしは図書館ボランティア「ホ

ワイトブックス」。

【参加費】無料

◎能代市立図書館(主催)

TEL.0185-54-1114



## 募集情報

### 第5回ティファニー財団賞 ～日本の伝統文化と現代社会～

【対象事業】①地域の伝統文化を現代社会の営みにマッチさせ、地域文化を核として広く市民を巻き込んだ活動となっている事業②地域社会に昔からあった活動を再活性化することにより、地域の誇りを取り戻し、地域の活性化に寄与している事業③伝統文化をテーマに国内外と交流することで開かれた地域づくり、地域社会の活性化に役立っている事業

【表彰】伝統文化大賞、伝統文化振興賞  
(各賞1団体、賞金200万円、トロフィー)

【応募締切】4月2日(月)必着

◎ティファニー財団賞事務局(公財)日本国際交流センター内

TEL.03-3446-7781

<http://www.jcie.or.jp/japan/cn/tiffany/>

## 助成金情報

### 2012年全労済地域 貢献助成事業

【助成対象】環境活動や子育て子育て支援活動に携わる市民団体等を対象に、「未来の子どもたちに豊かな自然を残すために、今と未来を生きる子どもたちのために」をテーマに、地域の人々がたすけあって環境を守る活動、子どもの健やかな育ちを支える活動

【助成金額】1団体あたり30万円上限(総額2000万円予定)

【応募期間】3月16日(金)～4月3日(火)当日消印有効

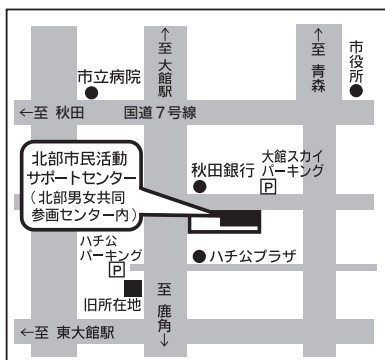
◎全労済 総務部内 地域貢献助成事業事務局 TEL.03-3299-0161

<http://www.zenrosai.coop/eco>



日	月	火	水	木	金	土
3/11 【いのちのコンサート (北秋田市)】	12 ④ 八森 ③ 十和田	13 ⑥	14 ① 【大館・北秋田地域市民活動ネットワークセミナー】 (P.7)	15 ⑦	16 ⑤	17 【水と緑のネットワークセミナー】 【女子力が能代を変える!】(P.7)
18 ③ 花輪	19	20 ⑥ 【北部エリア感謝祭】(P.7)	21 ① ③ 十和田 ④ ⑤ 峰浜	22 ④ ⑦ ③ 十和田	23 ⑤ 【のしる市民まちづくりフォーラム】(P.7)	24 【大人のおはなし会】 (P.7)
25	26	27 ⑥ ③ 花輪	28 ① ③ 花輪	29 ⑦	30 ⑤ ③ 十和田	31
4/1	2 ③ 十和田	3 ⑥	4 ① ② 能代	5 ⑦	6 ⑤	7
8 ③ 花輪	9	10 ⑥ ② ニツ井	11 ① ④ 八森	12 ⑦ ③ 十和田	13 ⑤	14

- ④【三種町】おしゃべりサロン「縁側で日なたぼっこ」(八竜どうもの会) ④三種町保健センターTEL.0185-83-5555  
(三種町八竜農村環境改善センター)13:30~15:30
- ②【能代地区・ニツ井地区】ほっとサロン(サポートグループふれあいのW A) ④能代市保健センターTEL.0185-58-2838  
(能代地区/山本地域振興局県民交流サロン)13:30~15:30 (ニツ井地区/ニツ井公民館)9:00~12:00
- ③【花輪地区・十和田地区】ふれあいサロン ④鹿角市健康推進課 健康増進班 TEL.0186-30-0119  
(花輪地区/鹿角市花輪)9:30~11:30(十和田地区/鹿角市十和田)9:30~11:30
- ④【八森地区・峰浜地区】陽だまりの会「しーがる」「らべんだー」 ④八峰町福祉保健課 TEL.0185-76-4608  
「しーがる」(八森地区:八峰町文化交流センター「ファガス」)13:30~15:30  
「らべんだー」(峰浜地区:高齢者多目的集会施設「はつらつ苑」)13:30~15:30
- ⑤【北秋田市】サロン「あんず」(精神保健福祉ボランティア「れもんの会」) ④TEL.090-3645-6520(代表/小坂和子)  
(北秋田市交流センター)11:00~14:00
- ⑥【上小阿仁村】みんなの茶の間 ④上小阿仁村保健センターTEL.0186-77-3008  
(上小阿仁村・旧小沢田小学校)10:00~15:00
- ⑥【藤里町】コーヒーサロン「よってたもれ」(心といのちを考える会) ④事務局TEL.0185-79-1522  
(藤里町三世代交流館)13:30~16:00
- ④【大館市】がんサロン(大館地区がん患者友の会「大館虹の会」) ④TEL.0186-42-4388(代表/土門昭夫)  
(大館市立総合病院)13:00~16:00
- ①【小坂町】お茶っこサロン「一休さん」 ④みんなのお家「だんらん」TEL.0186-25-8020  
(小坂町)9:00~13:00



<編集後記>アンケートでは、県北以外の方からも回答があり、幅広くご覧いただいていたことを確認できました。貴重なご意見、励ましの言葉に感謝の思いでいっぱいです。(あお)



『んだすな』には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成24年3月10日発行  
発行：秋田県企画振興部地域活力創造課  
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1  
TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3873  
編集：北部市民活動サポートセンター  
〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町48-1  
TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589  
<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>  
E-mail [anec1@io.ocn.ne.jp](mailto:anec1@io.ocn.ne.jp)

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。○この印刷物は1,500部作成し、印刷経費は1部当たり23.3円です。